

根拠を基に、吹き出しに自分の考えを書くことで、読みを深める指導の工夫

1 単元 本ともだちになるう 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」

2 目標

- 易しい読み物を興味をもって読もうとしている。(関心・意欲・態度)
- 今までに読んだ本の中から、好きな本を友だちに分かるように紹介することができる。また、友だちの本の紹介で、いいなと思うところを考えながら聞くことができる。(話すこと・聞くこと)
- 読んだ本の中で、一番おもしろい場面が相手に伝わるように分かりやすく紹介する文を書くことができる。(書くこと)
- 場面の様子や登場人物の行動などについて、想像を広げながら読むことができる。(読むこと)
- 文の中に出てくる新出漢字や片仮名の読み方や使い方を知り、使うことができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 単元について

本単元は、これまでに培った読みの力を定着させるとともに主体的に教材を読み進め、読書の楽しさを体験し、読書への親しみを深めることをねらいとしている。本教材は、小さい頃から共に育ち、成長してきた愛犬「エルフ」と主人公「ぼく」との心の交流を中心として、そこに満ちる深い愛、命の慈しみを描いた物語である。語り手である「ぼく」の成長と照らしながら、「エルフ」の成長を描いているこの物語は、時間的な順序がはっきりしており、話のあらすじがつかみやすい。また、「ぼく」の思いを想像しながら読み深めていけるような挿絵も多く、お話の世界を味わうことに適した教材である。

これまでに児童は、「おむすびころりん」「大きなかぶ」「くじらぐも」などの教材により、物語の大体の内容をとらえたり、場面の様子や登場人物の気持ちを想像する学習をしてきている。

【実態調査】 平成21年10月23日調査 (29名調べ)

① 物語の本を読むことは好きですか。	はい27名	いいえ2名
② 気持ちを考えて吹き出しに書くことは好きですか。	はい24名	いいえ5名
③ みんなの前で発表することは好きですか。	はい11名	いいえ18名
④ 次の文章を読んで、ざりがにの赤ちゃんの元気な様子が見えるところを書きましょう。 ざりがにの赤ちゃんはげんきです。水のなかをびゅんびゅんとはねながら、とんでいます。すきとおったはだいろで、ありぐらいのおおきさです。・・・略		
正答 水のなかをびゅんびゅんとはねる。	5名	

実態調査の結果から、児童は、物語の本を読むことが好きであることが分かる。また、「大きなかぶ」「くじらぐも」の教材の学習によって、登場人物の気持ちを想像して吹き出しに書くことができるようになり、気持ちを想像することが楽しいと感じている児童が多い。しかし、自分の考えを発表することが苦手な児童が多く、根拠となる文を見付けることのできる児童は少ない。

そこで、本単元の指導に当たっては、挿絵を参考にしたり、時間の経過を表す文などに触れたりしながら、「ぼく」と「エルフ」の言った言葉や行動を時間を追って正確に読み取る。そして、「ぼく」の「エルフ」への思いが分かる文を書き抜き、その文を基に話し合い、「ぼく」の「エルフ」への思いを読み取る。新学習指導要領「C読むこと」の指導事項に「エ文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。」と示されているが、低学年から、自分の考えをまとめるには、根拠となる文を基にまとめることを指導していきたいと考える。更に、「ぼく」と「エルフ」の気持ちを吹き出しに書くことで、より深い読み取りをさせ、物語のよさに触れ、本を読むことの楽しさを味わわせる。そして、好きな本を選んで、紹介カードを書き、紹介し合う活動を通して、楽しんで読書しようとする態度を育てていく。

4 学習活動の計画(8時間取扱い)

第1次 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を読む。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4時間

時	主な学習活動	評価規準	関	調	書	読	言
第1時	全文を読み、感想を発表する。	全文を読み、思ったことを発表している。	◎	○			○
第2時	「ぼく」と「エルフ」の行動を読み取る。	「ぼく」と「エルフ」がしたことをノートに書いている。			○	◎	
第3時(本時)	「ぼく」の「エルフ」への思いを読み取る。	「ぼく」と「エルフ」の気持ちを吹き出しに書いている。			○	◎	
第4時	好きなところを紹介し合う。	好きなところを発表している。	○	◎			

第2次 好きな本の紹介カードを作ろう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

第3次 「わたしのおすすめの本」を紹介しよう・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間

5 本時の学習

(1) 目標

「ぼく」が言った会話文や行動から、「ぼく」の「エルフ」に対する思いを読み取ることができる。

(2) 研究テーマに迫るための本時の工夫点

本時は、「ぼく」の行動や会話文を書き抜き、書き抜いた文を基に話し合う活動を通して、大事な言葉や文を押さえて、物語を読み取る力を育てる。また、書き抜いた文を基に、「ぼく」と「エルフ」の気持ちを吹き出しに書くことで、より深く読み取る力を伸ばす。

(3) 準備・資料

学習計画表、「ぼく」と「エルフ」の行動の書かれたカード、児童のこここネームカード、犬のぬいぐるみ、児童用の「ぼく」と「エルフ」と書かれた札、挿絵、ワークシート

(4) 展開

◎は、研究テーマに迫るための手立て

学習活動・内容	教師の指導・支援及び評価
<p>1 全文を音読し、「ぼく」と「エルフ」がしたことを確認する。</p> <p>(1) 全文を音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一斉読み <p>◎読みの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」と「エルフ」の会話文や行動が表れている叙述 <p>(2) 「ぼく」と「エルフ」のしたことを確認するクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズの答えの札を挙げる。 <p>2 本時の学習問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ぼくは、エルフをほんとうに好きだったのだろうか。</p> </div> <p>3 学習問題について考え、話し合う。</p> <p>(1) 根拠となる文の書き方の説明を聞く。</p> <p>(2) 根拠となる文をワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねるまえには、かならず、「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」って、いってやった。 ・エルフとぼくは、まい日いっしょにあそんだ。 <p>(3) 根拠となる文を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エルフのことが好きだと思います。それは、「まいばんエルフに、『ずうっと、大すきだよ。』って、いってやっていたからね。」の文からです。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「大すきだよ。」ではなく、なぜ「ずうっと、大すきだよ。」なのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・エルフが死んでしまってもぼくは好きだよ。忘れないよ。ということから。 <p>4 根拠となる文を基に、「ぼく」と「エルフ」の気持ちを想像して、吹き出しに書く。</p> <p>「ぼく」・・・いつまでも大すきだよ。 「エルフ」・・・かわいがってくれてありがとう。とてもうれしかったよ。</p> <p>5 自己評価をする。</p> <p>① 「ぼく」が「エルフ」を好きだとおもう文をかけましたか。</p> <p>② 「ぼく」と「エルフ」のきもちを、ふきだしにかけましたか。</p> <p>6 家庭学習のポイントと次時の学習の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>すきなところをしょうかいしあおう。</p> </div>	<p>教師の指導・支援及び評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を出して音読しながら、クイズに対する答えを見付けるように話す。 ・前時の学習を振り返り、クイズ形式で、「ぼく」と「エルフ」のしたことを確認して、本時の学習の導入とする。 ・「ぼく」の行動の時にはぼくの札を、「エルフ」の行動の時にはエルフの札を挙げる。一緒にしたことは、ぼくとエルフの札を挙げる。 ・本当に「ぼく」は「エルフ」が好きだったのだろうかと問い、好きな理由を示すことが本時の学習であることを知らせる。 ◎理由は、必ず文に書かれている「ぼく」の行動や会話文を書き抜くことを指示する。 ・考えの根拠となる大事な文を書き抜く活動は、児童にとって初めての学習であるので、例文を提示し、ワークシートを使って書くようにする。 ・進んで文を見付けワークシートに書ける児童には、その他の文も見付けて書くように指示し、書けない児童には、個別指導する。 ・児童一人一人の考えを大切にするために、「こここネームカード」を用意し、黒板の根拠となる文のところにネームカードを貼る。 ◎気持ちを想像することで、二人の深い心の結び付きを感じ取るようにする。 ・物語のよさを感じさせ、余韻の残る学習のまとめとする。 ◎ぼくがエルフのことを大好きだという思いを吹き出しに書くことができる。 (発表・ワークシート) ・「根拠となる文を書き抜けたか」「吹き出しに気持ちを書けたか」の2項目について、自己評価する。 ・本時の学習を振り返って「ぼく」「エルフ」の気持ちを考えながら音読するよう、家庭学習のポイントを話す。 ・次時の学習内容を確認することにより、次時の学習の見通しをもたせる。